



消費者への  
アドバイス

# ガソリン携行缶を安全に使うには

## 高温の場所、温度変化の大きい場所で保管しない

高温の場所に保管したガソリン携行缶のキャップを外すと、ガソリンが激しく噴出するおそれがあります。また、温度変化の大きい場所で保管すると、内圧の変化が繰り返され、亀裂が生じたり中身が漏れるおそれがあります。

高温になる場所や温度変化の大きい場所で保管しないようにしましょう。取扱説明書をよく読み、こまめにエア調整ねじで圧力調整を行うなど、適切な取扱いをしましょう。

## ガソリンを必要以上に保管しない

ガソリンは危険物です。取扱いや保管には十分に注意し、必要以上の量を保管しないようにしましょう。

なお、ガソリン携行缶は運搬容器であり、長期保管用の容器ではありません。



本内容の詳細は、独立行政法人  
国民生活センター公式サイトに掲載  
しています。  
<http://www.kokusen.go.jp/>

くらしの危険

最新号やバックナンバーは  
こちらからご覧いただけます。



公式サイト「くらしの危険」コーナー  
<http://www.kokusen.go.jp/kiken/index.html>

●「くらしの危険」は、全国の消費生活センター、医療機関等から収集した情報をもとに、被害や事故の未然防止・拡大防止のために作られています。●特定の商品・サービス等を推奨するものではありません。●商品やサービス、設備によって起きた事故の情報を最寄りの消費生活センターにお寄せください。●無断転載はお断りいたします。



独立行政法人  
**国民生活センター**

〒252-0229 神奈川県相模原市中央区弥栄3-1-1 TEL: 042-758-3165 ●2021年5月発行

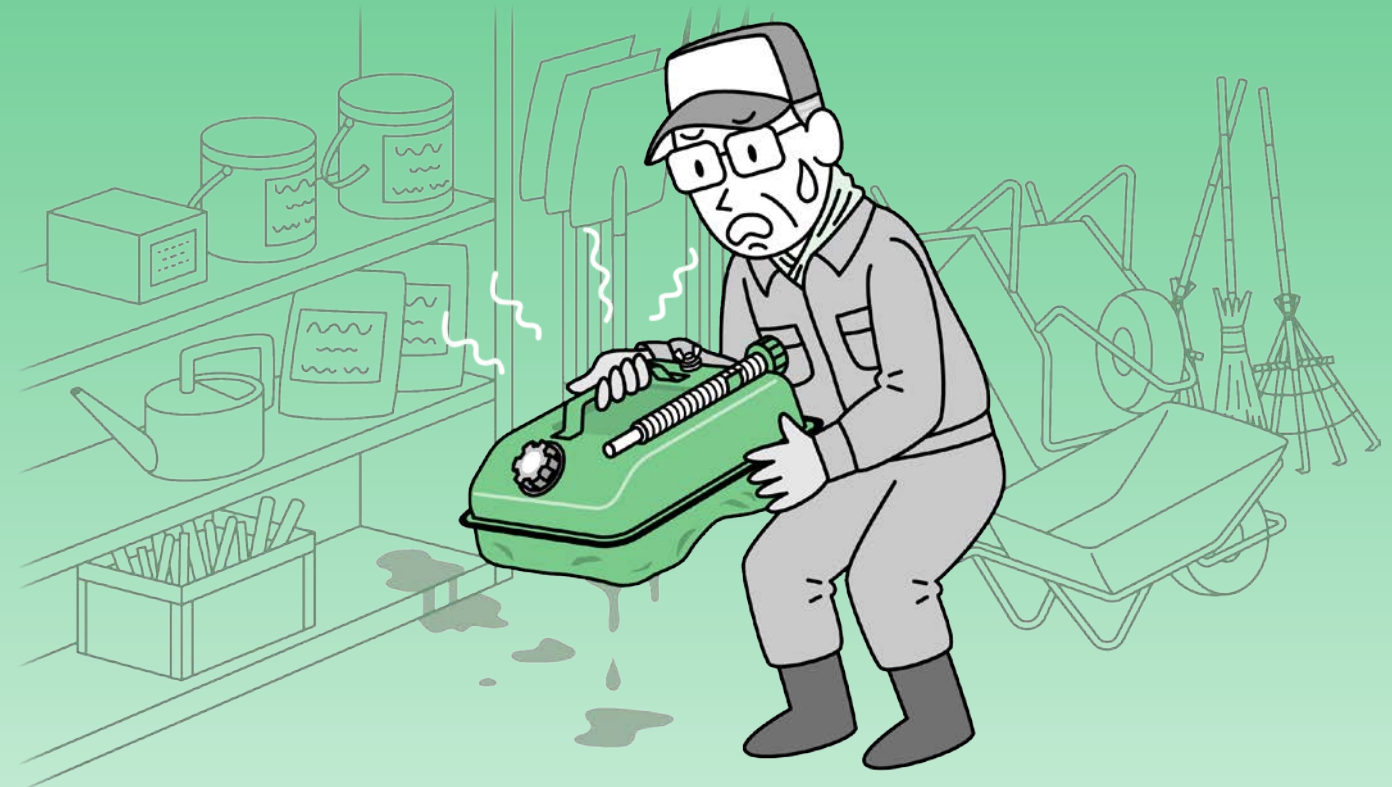
イラスト：川崎 敏郎

# くらしの危険 Number 361

## ガソリン携行缶の取扱いに注意！

ガソリンの運搬に使用するガソリン携行缶。

取扱いを誤ると、ガソリンの漏えいや噴出の原因となり、引火の危険性もあります。  
高温の場所、温度変化の大きい場所で保管しないようにしましょう。



## ガソリン携行缶に関する相談

PIO-NET\*<sup>1</sup>には、ガソリン携行缶からガソリンが漏えいしたという相談が複数件寄せられています。また、医療機関ネットワーク\*<sup>2</sup>には、ガソリン携行缶から漏えい、

または付着したガソリンに引火したと考えられる事故情報が寄せられています。過去には、多くの死傷者が出た引火・爆発事故も発生しています。

\*1 PIO-NET（全国消費生活情報ネットワークシステム）とは、国民生活センターと全国の消費生活センター等をオンラインネットワークで結び、消費生活に関する相談情報を蓄積しているデータベースのこと。

\*2 消費者庁と国民生活センターとの共同事業で、消費生活において生命または身体に被害が生じた事故に遭い、参画医療機関を受診したことによる事故情報を収集するもので、2010年12月より運用を開始した。

# こんな相談が寄せられています

## ケース 1

15年前にホームセンターで購入したガソリン携行缶にガソリンを入れ、倉庫で保管していた。ガソリンのにおいがするので調べると底面に亀裂が生じ、ガソリンが漏れていた。

(PIO-NET、70歳代・男性)

## ケース 2

2年以内に購入したガソリン携行缶。保管しているガソリンが減っていることに気付き、確認したところ底に数mmの亀裂が入っていた。

(PIO-NET、70歳代・男性)

## ケース 3

11年前に購入したガソリン携行缶にガソリンを入れ、備蓄倉庫に保管していた。ガソリン臭に気付き、ガソリン携行缶を持ち上げると、底の1箇所がキズのようになっており、そこからガソリンが漏れた。

(PIO-NET、団体等)

## ケース 4

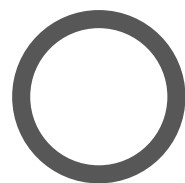
トラックの助手席にガソリン携行缶がある状態でたばこを吸おうとライターに火をつけたところ引火。顔全体から首にかけて赤くなり（I度熱傷・範囲10%）、右手首に3cmのびらんが生じた（II度熱傷・範囲1%）。

(医療機関ネットワーク、30歳代・男性)

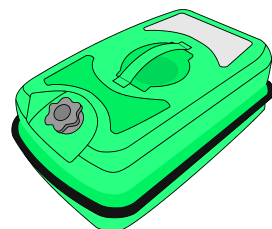
## ガソリン携行缶とは

ガソリンは気温がマイナス40℃でも気化し、常温でも蒸気が発生している状態であり、小さな火源でも爆発的に燃焼します。蒸気は空気より重く、低い場所にたまりやすいため、離れたところにある小さな火源（ライター等の裸火、静電気、衝撃の火花等）により引火する危険性があります。

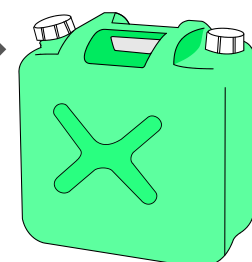
ガソリンを運搬する際は、消防法令で定められた安全性能基準に適合した金属製の携行缶を使用しなければなりません。灯油用ポリ容器での運搬は法律で禁止されています。



ガソリン携行缶



ポリ容器



# 事故の危険性を検証しました

## 1. 高温の場所に放置したとき

夏場、直射日光が当たる車内にガソリン携行缶を放置すると、中身の液面温度は60℃以上まで上昇し、携行缶の内圧も高まります。

夏場の車内に放置した状況を想定し、内圧を高めたガソリン携行缶のキャップを外すと、ガソリンが激しく噴出しました。



動画はこちら



※テストは、管轄消防本部の許可を得た施設で、専門家の指導のもとで安全に配慮して行いました。絶対に真似をしないでください。

## 2. 温度変化の大きい場所に保管したとき

ガソリン携行缶を温度変化の大きい場所に保管すると、内圧の上昇と低下が繰り返されるため、変形や亀裂が生じることがあります。

変形

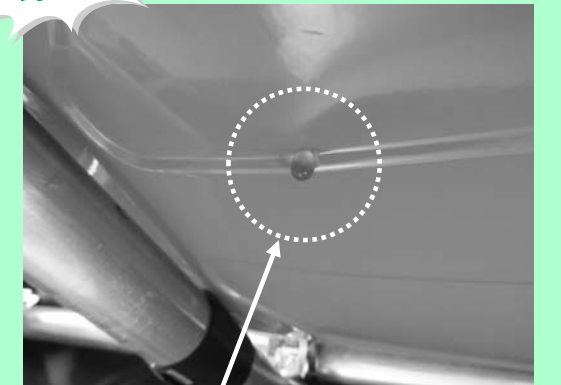
変形前  
(底面)



変形後  
(底面)



亀裂



底面の亀裂から内容物が漏れいている

●この調査の詳細は、独立行政法人国民生活センター 公式ウェブサイトの発表情報「ガソリン携行缶の取り扱いに注意—取り扱いを誤るとガソリンの漏えいや噴出の原因に—」で見ることができます。